

画面の向こうの顔が

ほんらい 本来SNSは、コミュニケーションを図り、人間関係をより豊かにすることができる便利なサー

ネットいじめ

「ネットいじめ」とは、インターネットを利用して、他人を傷つけたり、不快な思いをさせるいじめのことを言います。コミュニケーションアプリのグループの中で陰口や悪口を言ったり、「グループはずし」と呼ばれる「仲間はずし」をしたりということが問題となっています。



ネットでの行動

これは、市内の中学生が書いた作文です。SNSでの誹謗中傷によって自ら命を絶ったという事件をきっかけに、自身のこれまでのネットでの行動を見つめ直し、おかしさに気づいています。

これから私たちは、家庭や学校、職場などでインターネットに多く触れながら生活していくことになります。インターネットは、人を傷つけるためではなく、生活を豊かにするために、「画面の向こうにいる人」の存在を感じながら、利用しましょう。

「二〇二〇年度人権作文・詩・標語・ポスター集」より

感覚がマヒしていったのだらうと思います。だから、これからは今回の様なネットでの誹謗中傷をしないようにしていきたいと思いました。

今回の体験を通して自令は、ネットでの誹謗中傷でも傷つく人はいるということを改めて認識させられました。そして、自令や周りの人が、自殺などで亡くなった人に対してはもちろん、そうでなくても、ネットでの誹謗中傷や相手を煽ったりすることなどの加害者側にならないように、「画面の向こうには人がいて、それによって傷つく人がいる」ということを伝えていきたいです。そして、ネットに頼らず軽率な行動をしないようにしたいです。

見えていますか？

ビスです。しかし、それを悪用し、ネットいじめや誹謗中傷の投稿などがされています。

誹謗中傷

「誹謗中傷」とは、悪口や罵りを意味する「誹謗」と、根拠のないことで名誉を傷つける「中傷」を合体した言葉です。SNS等で誹謗中傷の被害を受けた人が精神的に追い詰められ、自ら命を落とすという事例が多く発生しています。



皆さんは、ネットを使うなかで何か気をつけていることはありますか？ ネットだから、匿名だからと軽率な行動をしていませんか？ 自令は、よく考えずに無責任な行動をしてしまうことがよくありました。

六月のある日、ニュースを見ていたら、ある番組に出ていた人が自殺したということを知りました。しかも、自殺の理由が誹謗中傷ということにとっても驚きました。さらに、その人の親が加害者のことを訴えると言っていたのでとても驚きました。少し前から「ネットでの誹謗中傷は訴えられる時代である」と言われていたのですが、実際にニュースを見ると、とても実感がわきました。

詳しいことが気になり、ネットでこの件に関する記事を見てみると、「画面の向こうには人がいます。相手はAIではありません。」という文が目に入り、自令も他人事ではないと思いました。今までの自令のネットでの行動を振り返ると、自令がしていることの本質は、この加害者とそんなに変わらないことに気づきました。

今、ネットでは煽りや誹謗中傷は当たり前のようにあります。だから、「それなら自令も」や「少しだけなら」と自令も無責任な行動をしてしまっていたのです。それが、おかしいことであると気づけないほどに

市内在住 中学二年生